

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成23年度事業報告

目 次

1. センター概要	2
2. 教員	3
3. 委員会等	3
4. プロジェクト事業	5
1) 公募プロジェクト	5
2) センター機関推進プロジェクト	10
○重点プロジェクト	11
○一般プロジェクト	23
5. アジア・アフリカ学術基盤形成事業	24
6. 研究成果の公開・発信事業	26
7. 研修事業	27
8. その他	28

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

1. センター概要

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（昭和 41 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11 年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野、比較文献資料学分野及び平成 21 年度から増設されたアジア社会・情報分野の 3 つに分かれる。

造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、アジア諸言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を、アジア社会・情報分野は、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を主な研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授 1・准教授 1、比較文献資料学分野担当の教授 1・准教授 2、アジア社会・情報分野担当の教授 2 からなる。

平成 15 年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施するようになった。（個別のプロジェクトについては別表参照）。現在では、これらは機関推進プロジェクトとして継続的に実施されている。

平成 21 年 6 月には、文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、翌平成 22 年度から全国の関連研究者コミュニティに対しより開かれたセンターとしての活動を開始した。共同研究は上記の 3 分野にまたがって公募され、学内外の委員からなる運営委員会での審議によって選抜・評価されている。

文献資料とデータベースはこれまでも広く国内外の研究者・学生に公開し利用されてきたが、それ以外の研究資源も含めた使いやすい公開方法の整備、より高次元なアジア研究データベース開発を通じ、研究者コミュニティや社会の要望に応え、新しい共同研究に発展しうるような共同利用の実現を目指している。

平成 21 年度には、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に「アジア比較社会研究のフロンティア」が採択され、アジア社会・情報分野を中心に 3 年計画で、拠点化のための作業が進められている。

2. 教員

センター長	教授	羽田 正
副センター長	教授	園田 茂人
	教授	丘山 新
	教授	梶屋 友子
	教授	松田 康博
	准教授	板倉 聖哲
	准教授	名和 克郎
	准教授	廣田 輝直

3. 委員会等

1) センター運営委員会

開催日 平成23年6月17日(金) 15:00～

平成24年2月 9日(木) 15:00～

運営委員会委員

園田 茂人	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター アジア社会・情報分野・教授
名和 克郎	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 比較文献資料学分野・准教授
池本 幸生	東京大学東洋文化研究所汎アジア部門・教授
小松 久男	東京大学大学院人文社会系研究科・教授
村田 雄二郎	東京大学大学院総合文化研究科・教授
加藤 博	一橋大学大学院経済学研究科・教授
小長谷 有紀	人間文化研究機構・国立民族学博物館民族社会研究部・教授
水野 直樹	京都大学人文科学研究所人文学研究部・教授
宮治 昭	龍谷大学文学部・教授
宮 篤博史	成均館大学校東アジア学術院(韓国・ソウル)・教授
柳澤 悠	東京大学名誉教授

2) センター委員会

開催日

平成23年 4月29日(火) 14:30～
平成23年 5月27日(火) 14:30～
平成23年 7月 5日(火) 14:30～
平成23年 9月13日(火) 14:30～
平成23年10月 4日(火) 14:30～
平成23年11月 8日(火) 14:30～
平成23年12月 6日(火) 14:30～
平成24年 1月17日(火) 14:30～
平成24年 2月14日(火) 14:30～
平成24年 3月 6日(火) 14:30～

センター委員会委員

園 田 茂 人	アジア社会・情報分野、委員長
榊 屋 友 子	造形資料学分野
板 倉 聖 哲	造形資料学分野
丘 山 新	比較文献資料学分野
名 和 克 郎	比較文献資料学分野
廣 田 輝 直	比較文献資料学分野
松 田 康 博	アジア社会・情報分野

4. プロジェクト事業

1) 公募プロジェクト

センターに蓄積されてきたアジアのデータベースを含む諸資料、人的ネットワーク、施設を活用し、アジア各地に関する多様な情報を、時間軸、空間軸に沿って比較・俯瞰し、アジアと世界の新しい理解方法を提案するための共同研究を募集し、実施している。

1. 課題名：アジアの工芸の〈現在〉 工芸の人類学の基礎研究

研究者

神戸大学大学院国際文化学研究科・教授 窪田幸子（申請者）

岡山大学文学部・教授 中谷文美

南山大学人文学部・准教授 演田琢司

東洋文化研究所汎アジア部門・教授 松井健

東洋文化研究所汎アジア研究部門・教授 池本幸生

東洋文化研究所東アジア第二研究部門・教授 大木康

東洋文化研究所汎アジア研究部門・准教授 名和克郎

研究期間：2年計画2年目（平成22～23年度）

◆全体計画

アジアの工芸については、漢籍の研究の一環として伝統工芸の現場がフィールドワークされたこともあったが、今日では学術的に研究されることが比較的少なく、特に人類学においてはそうである。本研究は、アジアにおいて工芸の人類学を構想するための基礎研究を行おうとするものである。まず、本研究では、實際上工芸の技術や歴史においてつながりのあるアジアの島嶼部からオセアニアまでを含めたアジアの工芸の人類学を構成する具体的な研究分野の総覧をつくることを課題とする。これは、個別の地域における研究のあり方を参考にした地域個別性を踏まえていなくてはならないが、同時にアジア諸地域間の比較対象に耐える枠組みであることが必要である。こうした個別性と地域性(個別性)を踏まえた枠組みをもった工芸の人類学を構想することは、変転の激しいアジアにおける工芸のあり方、ほかでもない、その背後にある生活文化の変化のあり方を記述、分析する方途を開発することになるのである。さらに、今日のグローバル化のもたらす大きな変化、アジア全域における人口の流動化、観光化とその影響などの外因をもよく検討するものでなくてはならない。こうした外部的な社会的・経済的文脈の変化は、工芸にとっても、また工芸の生産、流通、消費に関わる社会にとっても、枢要な意味をもつことは言うまでもないからである。

※最終研究成果については、センターHPで公開予定 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2. 課題名：国際的な米価高騰とインドシナ半島の稲作の変容に関する農業経済史

研究者

東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授 宮田敏之（申請者）

敬愛大学国際学部・教授 高田洋子

東京大学東洋文化研究所南アジア部門・教授 高橋昭雄

研究期間： 2年計画2年目（平成22～23年度）

◆全体計画

2008年、世界的に米価が急騰し、国際米市場は大きく混乱した。その背景としては、原油価格の上昇、地球温暖化による気候変動、バイオエネルギー用穀物栽培の拡大による食用穀物の不足など、長期的な要因があった。しかし、直接的には、主要米輸出国であるインドやベトナムが、天候不順やコメの国内流通の問題等により、米の輸出を規制し、これが、混乱の引き金となった。他方、フィリピンやエジプトなどの米輸入国では、輸入米不足への不安が広がって、米価が上昇し、社会不安も増大した。国際米市場が、極めて不安定な均衡の上に成り立っていたことが、明らかとなった。本研究は、こうした不安定な国際米市場の中で、世界有数の稲作地域であり、かつ、主要米輸出地域でもあるインドシナ半島において、どのような変化が起きているのか?について、農業経済史の立場から分析する。特に、米輸出価格が急騰した、米輸出世界第一位のタイ、90年代に急速に生産が回復して米輸出が復活したが、米輸出規制に踏み切らざるをえなかったベトナム、サイクロンによる被害から回復を目指すミャンマーを研究対象とする。第二次世界大戦後、これら三カ国の稲作と米輸出の歴史は、大きく異なる。しかし、インドシナ三大デルタの稲作地帯は、今後も、主要な米輸出地域として、国際米市場の中長期的な安定に重要な役割を果たすことが期待される。そこで、本研究は、第二次世界大戦後から2000年代に至る、およそ半世紀にわたるタイ、ベトナム、ミャンマーの稲作、米価格、米輸出経済の歴史的变化を踏まえ、現状と今後の課題を比較検証する。

※最終研究成果については、センターHPで公開予定 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

3.課題名：関野貞による東アジア文財写真の整理と分析

研究者

東京大学大学院工学系研究科・教授 藤井恵介（申請者）

東京大学大学院工学系研究科・技術専門職員 角田真弓

東洋文化研究所東アジア第一研究部門・教授 平勢隆郎

東洋文化研究所画像技術室・技術専門職員 野久保雅嗣

研究期間：2年計画1年目（平成23～24年度）

◆全体計画

東京大学東洋文化研究所には、戦前関野貞による中国大陸調査に関わる写真資料が大量に存在する。アルバムに整理されたものだけでも3019点を数える。これらは、現在人間文化研究機構と東洋文化研究所が共同で実施している「近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究」による整理が進んでいる。これに対し、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻にも、大量の関野貞による中国大陸の文化財を撮影した写真資料が存在する。キャビネ版焼付けが約1000点、ガラス乾板が約4000点ある。ガラス乾板は、上記の共同研究においてデジタル化を進めつつある。

ところが、いわゆるネガの形で存在する古写真資料は、デジタル化を進めると同時に、焼付け写真の状態で情報を確定し、長期保存に耐えるようにする必要がある。そして、それを研究者に提供し得る形にしておくのが、本来のあり方である。

そこで、本研究は、上記共同研究と連携しながら、整理の成果を焼き付け写真と関連づけて、その分析を進めるものである。

◆初年度の研究状況

初年度はデジタル化されたガラス乾板写真より約1,800枚の紙焼作成を行い、現在目録化に向け写真内容の分析（撮影時期、撮影場所、撮影対象、撮影者の特定）を行っている。共同研究者、研究協力者との研究会を年4回開催し、進捗状況の報告、内容分析の検討等を行っており、現在は公開に向けた目録化を進めている状況である。

4.課題名：新しいアジア像構築の試み：アジア・バロメーターの再分析プロジェクト

研究者

東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営センター・特任助教 岸保行（申請者）

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・助教 鴨川明子

ハワイ大学マノア校社会学部・准教授 中嶋聖雄

中央研究院社会学研究所・助研究員 李宗榮

東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター・副センター長、教授 園田茂人

研究期間：2年計画1年目（平成23～24年度）

◆全体計画

東洋学研究情報センターでは、猪口孝教授を中心に、2003年から2008年までの6年間、アジア・バロメーターという名のアジア全域（東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア）を対象とした調査を実施してきた。2009年度には、各年度で異なるスキームで実施されたデータが統合データファイルとしてまとめられ、徐々に、このデータをもとにした仮説検証型の実証研究が進められつつある。もっとも、これらのほとんどは従来のディシプリンの思考枠組みにとらわれており、アジア研究の新地平を切り開くには至っていない。そこで本プロジェクトでは、従来、アジアを語る際に用いられてきたいくつかの理論的・理念的枠組みを脱／再構築することを試みる。

たとえば、1980年代後半の儒教資本主義論が華やかかなりし頃、東アジアにおける発展の説明原理として「集団主義」「教育重視」「就労重視」「家族主義」といったいくつかのキーワードが用いられてきたが、これらが実証的に検討されてきたとはいえない。その点、アジア・バロメーターには、これらの概念を操作的に定義した質問群が複数時点で用意されているため、これらの変数を軸にした時系列的・比較横断的分析が可能となっている。経済（岸）、教育（鴨川）、文化（中嶋）、政治（李）、比較（園田）といったキーワードで研究を進めている研究者を糾合し、従来アジアを語る際に用いられてきた概念を実証的に検討するとともに、アジア諸国のグルーピングを行い、これらの理論枠組みの射程を検討したい。

◆初年度の研究状況

平成23年4月1日に、ホノルルで開かれたアジア学会（Association for Asian Studies）年次大会でのパネル251に出席した後、昼食を囲んで、それぞれにラフなプランを持ち寄った。同年7月11日、12日と共同研究者の李宗榮を東京に招聘し、アジア・バロメーターを利用して論文を執筆する予定の若手研究者へのセミナーの講師をしてもらうと同時に、本研究会のメンバーと意見交換し、今後の研究会の進め方について確認した（旅費利用）。本年度は、基本的に個人での分析・論文執筆が主であり、上述の7月の意見交換の際に、共同で利用するデータベースは不要であるところになったため、平成24年2月にハワイ大学で第一回目の共同研究会と、その目的や意図に

ついでに大学院生対象のセミナーの開催を計画した。

発表した論文や口頭報告については以下のとおり。

○岸 保行, 2011, 「量的分析手法——「問題意識の明確化」から「データの分析」まで」

鴨川明子編『アジアを学ぶ：海外調査研究の手法』勁草書房所収.

○岸保行、Fabian J. Froese, 2011, 「ソフトパワーが大学生の企業選好に与える影響アジア 6

カ国の大学生の外資系企業選好の比較研究」2011 年日本労務学会全国大会（明治大学）での
発表

○鴨川明子, 2011, 「この本を手にとったあなたへ」

鴨川明子編『アジアを学ぶ：海外調査研究の手法』勁草書房所収.

2) センター機関推進プロジェクト

研究情報の収集、資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを所内で募集し、実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

平成 23 年度センター機関推進プロジェクト一覧

	No.	分野	申請者	プロジェクト名	継続期間
重点	1	文献	丘山	漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み	継続(3-2)
	2	文献	松田	台湾現代史貴重史料の収集・整理	継続(3-2)
	3	文献	名和	日ネ協会旧蔵資料データベース構築	継続(3-2)
	4	文献	廣田	古典一次資料上における知識DB構築支援の試み	継続(2-2)
	5	文献	長澤	エジプト議会議事録データベースの改訂	新規(1-1)
	6	文献	鈴木	アラビア文字圏ポリグロット・グロッサリープロジェクト	継続(2-2)
	7	造形	板倉	東アジア絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト	継続(3-2)
	8	造形	小川	アジア美術画像アーカイヴ(第3期)	新規(2-1)
	9	社会情報	園田	アジアバロメーターによる先導的アジア比較研究の刊行事業	新規(2-1)
	10	文献、造形、社会情報	安富	社会生態史学のためのデータベース構築	新規(3-2)
一般	11	造形	榊屋	イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイヴ	継続(5-3)

重点プロジェクト

1. 漢籍知識庫の構築と国際共同運用への試み（3年計画2年目）／丘山

[文献]

◆今年度の成果

1) 東洋文化研究所所蔵漢籍 画像書影遡及撮影及びスキャン作業

これまで行ってきた漢籍善本の画像データベースの遡及入力を下記のように行った。

『曲録』（倉石 41767） 520頁

『曲苑』（倉石 41776） 1300頁

『礼記正義』（經部-禮-禮記-3） 7421面

『儀礼経伝通解』（貴重 9） 4261面

（既に低精細白黒画像を公開済みだが、新たに高精細カラー画像を撮影）

『儀礼経伝通解』（貴重 83） 57面

（既に低精細白黒画像を公開済みだが、新たに高精細カラー画像を撮影）

『周易正義』（經部-易-4.3） 270面

『京師図書館善本書目』（倉石 20559） 840面

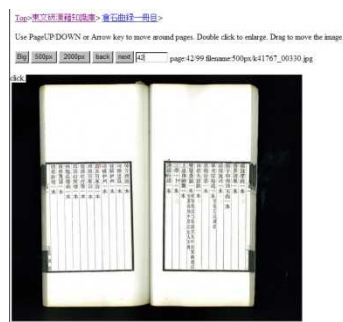
2) 東洋文化研究所所蔵漢籍 目録の継続整備と機能拡張（漢籍知識庫としての機能性の拡張）

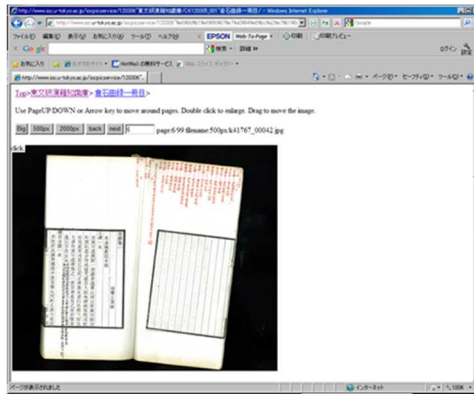
（この項目は、廣田准教授の支援による）

漢籍撮影書影を、図書事務室と写真室より、漢籍保管用サーバへ追加して保管、保管公開画像リストへの追加入力を容易にすることができるようになった。また、公開用サーバに追加するだけで自動的に保管用の大きな画像から、小さい公開用画像を生成する機能を作成。（漢籍目録から、リンクを貼る必要がある）

このことにより、量や質に関わらず、外注、内部作業によって得られた画像を、図書と写真室から保存公開できるようになる。

現在、一部工事中（保管画像リストへの容易な追加ができるようにすること、従来の保管画像の整理整頓）





3) 北京市中国国家図書館や北京大学歴史系などと、漢籍に関する今後の具体的協力作業を検討し、現在、本年度は以下のようにした結果、中国大陸でも検索速度が大幅に改善された。



(北京図書館ウェブページ上の東文研漢籍善本全文画像データベース)

<http://res4.nlc.gov.cn/home/index.trr?channelid=629>

⇒2012年7月発行『明日の東洋学』No.27号中、東文研元准教授、橋本秀美氏（現在北京大教授）による報告

4) 「四庫全書綜目提要」のためのテキスト化完了

5) 叢書類の子目の入力

a) 経部、史部まで入力完了し、子部の入力中。

⇒これにより、叢書類を簡単に検索できるようになり、しかも、原本をより安全に保管することができるようになった。

◆全体計画

申請者は、これまで長年にわたり台湾現代史貴重史料を私費で収集してきた。東文研に移ってから個人研究費などを使って収集を継続した。これらの史料の多くは台湾の図書館を含めて、どこにも公開されていない貴重なものである（流出した政府の機密文書を含む）。ただし、従来は個人的努力に依存しており、高価だったため、貴重資料の収集のチャンスを逃したこともあった。こうした貴重資料の収集をプロジェクトとして予算化し、より系統的・機動的な収集と整理を行うこととしたのが本プロジェクトの趣旨である。

◆今年度の進捗状況

平成24年3月現在、所定の予算と部門基盤構築費を併せ、古書と档案を合わせて以下の収集が済んでいる。今年度は、申請者が年度の前半米国に長期出張したため、資料の整理ができず、全額資料購入に充てた。来年度プロジェクトが認められれば、年度当初から整理を始めたいと考えている。

①古書

資料名
邁向勝利的新里程
嚙雪横渡帕米爾
中国国民党台湾省委员会现阶段加强基层组织与改进小组活动实施方案
特種情報教則
中隊伏擊政治作戰狀況結合戰鬪教練參考教案
陸軍軍官訓練班戰術教案
我為什麼反對共產主義
情報概論
司法行政部調查局義務工作人員吸收管理實施弁法
軍官團教育輔助教材
中央情報局内幕：克萊恩回憶錄
中国偉大領袖蔣介石
瀕臨墜毀中之馬共
加速中国大陆的「台湾化」
華中鉄幕
海南島
時代見証
陸軍連長講習班（特種教材—四六一二七）
陸軍連長講習班（特種教材—四六一三一）
陸軍歩兵学校政治課程講義

第四問題參考案（陸軍部隊訓練準則第一一八～一二三條）
大陸語文學人的苦難與犯行
聯勤軍需訓練班第一期學員畢業同學錄
抽絲剥繭看高雄暴力事件
人性與「抗議文學」
國民革命戰爭
華僑志
太原五百完人成仁與太原保衛戰史輯
蔣總統歷次對國民大會致詞彙輯
空軍供應司令部四十三年度兵器性能訓練計劃
中華民國廣播年鑑
提高政治警覺
新的形勢 新的任務
大陸匪區體育現況及今後體育重建計劃之研究
國際共產主義的戰略和戰術
匪情研究（7冊）
陸軍連長講習班（特種教材—四六一二七）
陸軍連長講習班（特種教材—四六一三一）
陸軍步兵學校政治課程講義
第四問題參考案（陸軍部隊訓練準則第一一八～一二三條）
大陸語文學人的苦難與犯行
聯勤軍需訓練班第一期學員畢業同學錄
抽絲剥繭看高雄暴力事件
人性與「抗議文學」
國民革命戰爭
華僑志
太原五百完人成仁與太原保衛戰史輯
蔣總統歷次對國民大會致詞彙輯
空軍供應司令部四十三年度兵器性能訓練計劃
中華民國廣播年鑑
提高政治警覺
新的形勢 新的任務
大陸匪區體育現況及今後體育重建計劃之研究
國際共產主義的戰略和戰術
匪情研究（7冊）

② 档案・書簡

資料名
(檔案) 阿波專案檔案
(檔案) 泰威專案檔案

③ 地図

(地図) 「旅戦術第二想定之六乙軍一般状況図」
(地図) 「附件一 旅戦術第二想定之六乙軍第三状況図 (二)」

◆ 具体的な成果物

整理が一段落すれば、所定の手続きを踏んだ上で、順次東文研図書室で公開したいと考えている。このため、平成 24 年度の実施計画としては、科研費や個人研究費による台湾への出張の機会を利用して積極的に資料収集を進める。3 年目としては、史料収集経費として 700,000 円、整理（書誌情報の入力等）のためのアルバイト代として 200,000 円を計上している。

3. 日ネ協会旧蔵資料データベース構築（3 年計画 2 年目）／名和

[文献]

◆ 全体計画

社団法人日本ネパール協会の旧蔵資料は、1950 年代から 60 年代、ネパールが近代国家に転換した最初の 20 年間に主にネパール国内で出版された、法律、統計、国王演説集等から、教育、農学、文学にいたる、ネパール語及び英語の多様な書籍・パンフレット等からなる、貴重なコレクションである。本プロジェクトは、同資料についての基本的なデータベースを作成することを、その目的とする。将来的には、ネパール関係の図書・資料に関するより一般的なデータベースへと拡充させていきたいと考えている。

◆ 今年度の進捗状況

計画の第二年度にあたる今年度は、第一に、昨年度に引き続きアルバイトを雇用し、ネパール語及び英語の資料の書誌情報を入力する作業を行った。具体的には、アルバイト 2 名を雇用し、暫定的に FileMakerPro で作成した雛形に沿って、基本的な書誌情報等を入力していく作業を進めた。ネパール語等デーヴァナーガリー文字のものについては、基本的な書誌情報について、共に Unicode を用いて、デーヴァナーガリー文字、ローマ字転写の双方を入力すると共に、固有名詞等については標準的な英語での表記も併記しつつ。資料内容が通常の図書、雑誌に加え数ページのパンフレットなど雑多な形態を含んでいるため試行錯誤を繰り返しつつの作業となったが、基礎的な書誌情報の入力及び予備的な確認作業を終了した。資料数は、英語による書籍・パンフレット類 589 点、同定期行物は各巻号を別個に数えると 765 点、デーヴァナーガリー文字による書籍・

パンフレット類 970 点、同定期刊行物 294 点であった。データのうち必要部分は、整形の上既に東洋文化研究所図書室に提供した。

予定よりやや早く基礎的な入力作業が終了したため、細かな目次情報等の入力、および、法律文書等著作権上の問題が生じない資料について、スキヤニングと pdf 化の作業を開始した。その際、日本ネパール協会資料はサイズの異なる様々な書籍、パンフレット等をまとめてハードカバーで製本してあり、通常のスキャナでは読み取り困難であるものが多数存在するため、そうした形態の資料のスキャンにもかなりの程度対応できる A3 スキャナ、および作業の為のノートパソコン 1 台を購入した。

◆具体的な成果物

現在までに公開済の具体的な成果物は存在しない。入力したデータは FileMakerPro 上では随時検索可能であるが、公開可能なデータベースとしていかなる形に成型していくかは来年度の検討課題である。紙媒体の成果としては、来年度にセンター叢刊での目録刊行を申請する予定である。

また、上記の通り、本プロジェクトによる書誌情報のデータは既に東文研図書室に提供され、図書室によるそれぞれの図書登録のための資料として活用されている。

4. 古典一次資料上における知識DB構築支援の試み (2年計画2年目) / 廣田 [文献]

◆全体計画

当センターが蓄積してきた古典一次資料のさらなる活用のためには、スキャン画像の電子テキスト化作業を経て、そこに研究者による知識を関連づけてゆく必要がある。当プロジェクトでは、一例として当研究所書庫で未整理となっていた倉石武四郎博士の講義ノートを対象とし、画像、テキストデータ、注釈などを継続的に蓄積してゆくためのデータベースの構築を目指した。

◆今年度の進捗状況

対象とした講義ノートは、日中学院所蔵の倉石武四郎博士旧蔵漢籍が、倉石文庫として当研究所図書室に収められた際、共に研究所に引き渡されたもので、博士の昭和六年から二十六年ごろまでの京都帝大、東京帝大、東大文学部での講義に際し執筆されたものである。講義ノートという形をとりながら、その内容は何度も加筆を加えられた嚴重極まるものであり、現在にも十分に適用しうる学術的成果を含んでいる。特に博士の戦前から戦後直後の業績については『目録学』等ごく一部を除き著書としてはまとめられておらず、これら講義ノートの刊行が期待されていた。

本年度は、ノートの全 39 冊、5454 枚の画像撮影・スキャンを行いアーカイブとして公開した。また、その詳細については、センター機関紙「明日の東洋学」に、「倉石武四郎講義ノートデータベースについて」として解説記事を掲載した。一部のノートについては、これまで 20 年以上蓄積されてきた、テキスト起こしデータが存在し、アーカイブでは、画像と共にこのテキスト起こしされたデータを保持できるようにした。簡易に画像、テキストデータを追加し、内外の協力者により継続して追加、校正が可能なようシステムを構築

した。著作権の博士の御遺族と連絡をとり、講義ノートの全文データと書影について、ネット上公開学術的利用の許諾書を得た。また、講義ノートのうち『支那学の発達』についての出版の許諾を得た。

◆具体的な成果物

URL <http://kuraishi.ioc.u-tokyo.ac.jp/> 2012年4月から公開

5. エジプト議会議事録データベースの改訂（1年計画1年目）／長澤 [文献]

◆全体計画

研究所が所蔵する立憲王制期のエジプト議会議事録に関するデータベース「エジプト議会議事録データベース (Parliamentary Records in Monarchical Egypt Data Base)」の改訂を目指す。これまでの下院部分の議事録に加え、上院部分の画像電子データを追加するとともに必要な検索システムを整備することによって、同議事録データベースの大幅な内容の充実を図る。

◆今年度の進捗状況

担当者は、この議事録の画像データを公開するために、東洋学情報研究センターの平成19年度の研究プロジェクトとして、「エジプト議会議事録データベース」を構築した（平成20年3月に完成・公開）。このデータベースは担当者がこれまでの科研費研究および財団法人東洋文庫現代イスラーム研究班アラブ班の研究事業の一環として実施してきた一連の研究の成果にもとづくものであり、今回はとくに東洋文庫の研究班が3年間にわたって行ったエジプト議会議事録の上院部分のデジタル画像化の成果をもとにデータベースの内容を改訂するものである。上記の東洋文庫研究会アラブ班の代表者であり、また研究所の班研究「中東の社会変容と思想運動」（代表：長澤）の研究協力者である池田美佐子氏（名古屋商科大学教授）の協力を得て、従来のデータベースの内容を検討し、改訂に関する委託業者（村瀬一志氏）との協議を重ねて改訂作業を行った。収録した上院議事録の会期は、1926年の第1期から、1951年の第27期までである。検索システムでは、会期・開催日・付録資料などからの検索によって、議事録の画像にアクセスできるなど便宜が図れている。同議事録はエジプト本国を初め、所蔵している機関がきわめて少ない貴重な資料であり、データベースの改訂・完成を通じて、近現代エジプトおよび中東地域の政治史・社会史研究の発展に国際的にも寄与するところが大きいと考える。

◆具体的な成果物

「エジプト議会議事録データベース」

<http://ricasdb2.ioc.u-tokyo.ac.jp/egypt/script/> 平成20年3月公開

改訂版 平成24年3月公開

◆全体計画

プロジェクト全体計画：アジアについては、文字圏として文化圏を捉えれば、漢字圏・梵字圏・アラビア文字圏の3文字圏がその中心的部分を構成していると捉えうる。文字の共有は文明語・文化語の共有より生じ、文明語・文化語の共有は語彙の共有をもたらし、思想・認識に一定の共通枠組みを与える。このような観点から、本プロジェクトは、アジア3大文字圏中、まずとりあえずアラビア文字圏を取り上げ、アラビア文字圏における最も基本的な言語として、アラビア文字圏全体の文明語・文化語たるアラビア語、その北半における共通文明語・文化語として共有されるペルシア語、そしてイスラム世界最後の世界帝國的な存在であったオスマン帝国の最重要言語であったオスマン語の3言語について、アラビア文字配列によるポリグロット・グロッサリーを作成することを計画し、その基礎作業として、上記3言語につき、各言語の語彙のアラビア文字入力作業を推進してきた。

◆今年度の進捗状況

5年にわたったプロジェクトにおいて、アラビア語・ペルシア語・オスマン語及びそれに関連してアルファベット表示のトルコ語につき、語彙のコンピューター入力作業を終え、その最終チェックもほぼ終わることを得た。さらに、この3言語をアラビア文字配列するための予備的検討も実施した。

積義については、各言語について各々の言語についての最も古典的な辞書のテキストを、原典性を重んずるべく、原辞書のCD-ROM版を作成し、各語彙についての積義部分をカット・アンド・ペーストの手法によって、アラビア文字配列することを計画しており、その素材となる原辞典の一部も入手し、CD-ROM化した。

さらに技法開発のために検討を進めた。ただ、積義部分の全面的配列にむけ検討を続けたが、三言語を合わせて、語彙数にして25万語を超えており、積義部分の配列は完成し得なかった。

◆具体的な成果物

なし

◆全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。アジア美術画像アーカイヴ・プロジェクトの中心をなす中国絵画のアーカイヴをより充実させるため、科研等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開していく。

これまでに公開した「中国絵画所在情報データベース」は国内外のアクセスがあり、世界的にも認知されてきた。又、2010年完成した「東アジア絵画史研究 文献目録」も日本の研究を世界に知らせる役目を果たしている。本プロジェクトでは、昨年試験的に

掲載した画像を本格的にイントラで公開することを目指し、同時に、新たな画像データベース「幕末期中国絵画所在情報データベース」の作成に取り組む。

◆今年度の進捗状況

具体的な作業としては、8月16日～20日まで去年に引き続き谷文晁一門の粉本調査を実施、撮影を行うとともに、この機会に参加した多くの研究者と意見交換を行った。

また、今年度から「幕末期中国絵画所在情報データベース」の一部として「谷文晁派(写山楼)粉本・模本資料データベース」として画像公開を開始した。地震のため3月に予定された公開開始が遅れ、5月から試験公開を行い、その後は画像を順次整理して加えていき、現在では588件の画像データを公開中

◆具体的な成果物

「谷文晁派(写山楼)粉本・模本資料データベース」 2011年5月より公開開始

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/edo/buncho.html>

それに伴う研究成果

拙稿「幕末期における東アジア絵画コレクションの史的位置－谷文晁の視点から」

『美術史論叢』28号 2012年3月

8. アジア美術画像アーカイヴ(第3期)(2年計画1年目) / 小川 [造形]

◆全体計画

東アジア美術研究室では、この60年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮20万点に及ぶ。これを中核として、さらに東京国立博物館収集東南アジア彫刻スライド資料2万点など、新たな資料を加え、科研費(基盤A・基盤S)とタイアップして、建築分野にもわたる調査・撮影旅行を実施してきた。今プロジェクトもそれを引き継ぎ、総合的なアジア美術画像アーカイヴの構築を目指す。

◆今年度の進捗状況

本プロジェクトでは『中国絵画総合図録 3編』の出版を来年度に控え、その準備を中心に行った。

整理したデータは以下の通り。

■アメリカ・カナダ調査 目録データ校訂、及び出版準備

23機関 2401件

A001 メトロポリタン美術館 35件

A003 シカゴ美術館 51件

A012 エール大学ギャラリー 67件

A016 プリンストン大学美術館 84件

A022 クリーヴランド美術館 90件

- A024 シンシナティ美術館 17 件
- A025 インディアナポリス美術館 73 件
- A030 カリフォルニア大学バークレー美術館 36 件
- A035 サンフランシスコ・アジア美術館 69 件
- A038 ホノルル美術館 145 件
- A049 サンディエゴ美術館 32 件
- A050 蝸居齋コレクション 281 件
- A053 曹仲英コレクション 183 件
- A054 グレーター・ビクトリア・ギャラリー 48 件
- A055 シアトル美術館 7 件
- A060 クロウ・コレクション 10 件
- A061 インディアナ大学美術館 4 件
- A062 デイトン美術館 30 件
- A063 個人コレクション 50 件
- A064 有味読齋コレクション 94 件
- A065 レスリー・ライト・コレクション 52 件
- A066 ボストン美術館 704 件 (一部未了)
- A067 ピーボディ・エセックス博物館 239 件 (一部未了)

■ヨーロッパ調査 目録データ作成、及び校訂

13 機関 806 件

- E007 チューリッヒ・リートベルク美術館 44 件
- E015 大英博物館 193 件 (一部未了)
- E016 ビクトリア・アンド・アルバート美術館 40 件 (未了)
- E017 東アジア美術館 (ケルン) 66 件
- E018 ベルリン国立博物館アジア美術館 151 件
- E023 プラハ国立博物館附属ナープルストゥコヴォ博物館 185 件 (未了)
- E024 アムステルダム国立博物館 10 件
- E027 ウィットフィールド・コレクション 9 件
- E031 自然史博物館 50 件 (未了)
- E032 西ノルウェー工芸美術館 94 件
- E033 ドイツ東アジア美術協会コレクション 3 件
- E034 ニュルンベルク市コレクション 8 件
- E035 シュロス博物館 7 件 (未了)

■国内調査 目録データ作成

1 機関 543 件

JM41 観峰館 (2010 年) 234 件 (未了)

JM41 観峰館 (2011 年) 309 件 (未了)

◆具体的な成果物

『中国絵画総合図録 3 編』第一巻 東京大学出版会 2012 年

9. アジアバロメーターによる先導的アジア比較研究の刊行事業(2 年計画 1 年目)/園田 [社会情報]

◆全体計画

2003 年から 2008 年まで、猪口孝教授を中心に実施されたアジアバロメーターも 2010 年によく全データを収録したデータベースを構築でき、そろそろ、その中から優れたものをえりすぐり、対外的に発信すべきタイミングにある。

他方で、英語による成果報告がなされても、日本人研究者によるデータベース利用が少ないという難点がある。そこで本プロジェクトでは優れた論文を日本語に直し、論文集の形で対外的に公開することを目的としている。

◆今年度の進捗状況

今年度の冒頭の計画では、全 5 巻で、今年度 2 巻、刊行したいと書いた。ところがその後、全 3 巻、今年度 1 巻刊行へと計画を変更した。

商業出版としても十分に耐えうるだけのレベルに達するために、収録する論文は厳選し、翻訳原稿も、徹底的に手を入れて読みやすくなるよう工夫を凝らした。その結果、2012 年 3 月 25 日に、『勃興する東アジアの中産階級：アジア比較社会研究のフロンティア I』を勁草書房から刊行することとなった。目次は以下の通り。

序章 アジア比較社会研究というフロンティア

園田茂人

第 1 部 グローバル化の中の中産階級

第 1 章 同質的な社会集団の誕生？—東アジア新中間層の神話と現実 園田茂人

第 2 章 中産階級の定義・実態・イメージ—日中韓比較の知見 周 倩

第 3 章 社会主義国家の中の中産階層—政治的有効性感覚の中越比較 朱 妍

第 4 章 東アジアに民主主義は似合わない？—中間層の政治参加にみる三類型
園田茂人

第 5 章 中産階級はグローバル化の担い手か？—世界社会論からのアプローチ
蔡 明璋

第 2 部 文化・情報フローの拡がりと複数形のアジア

第 6 章 メディア・ナショナリズムの時代？—インターネット利用とナショナル・アイデンティティの関連を探る 南 衣映

第 7 章 宗教は心の安寧に寄与しうるか？—日韓台の比較から
范 鋼華・蕭 新煌

第8章 東アジア型福祉モデルと社会資本—単数、それとも複数？ 張 継元

第9章 マクドナルド化する東アジア？—食文化の変化にみる多様なグローバル化
園田茂人

◆具体的な成果物

園田茂人編『勃興する東アジアの中産階級：アジア比較社会研究のフロンティア I』
勁草書房、2012年3月30日発行

10. 社会生態史学のためのデータベース構築 (3年計画2年目) / 安富 [文献]、[造形]、[社会情報]

◆全体計画

乾燥地に生きる人々の生活を明らかにし、そこでの暮らしが生態系をより豊かにする
ようなものとなるにはどのようにすべきかを考えるための実践的意義をもつデータベ
ース作りを目指している。そこから生まれる新たなコミュニケーションが更に、データベ
ースを豊かにするような、自律的に成長するシステムがその究極的目標である。

◆今年度の進捗状況

今年度は(1)中国山西省における三光作戦の村の老人の聞き取り調査、(2)アラ
シャン砂漠における生態系を回復させる経済活動を樹立するための研究調査、を中心と
して推進した。(1)は大野のり子氏が現地に数年にわたり滞在し、村の老人と心の交
流を展開しつつ聞き取り調査を行なっているものである。我々は、その活動を側面支援
してきた。昨年、その成果の一部を、大野のり子編『黄土地上来了日本人—中国山西省
三光政策村的記憶—』を東洋学研究情報センター叢刊13として刊行した。保存性と頒
布性の観点から、紙媒体によって刊行し、それを証言者やその家族に配布し、新たな聞
き取り調査を行った。また、来年度に聞き取り調査の残りの部分を、叢刊として発行す
る準備を進めており、更にデータベースとして提供していくための作業を行っている。

(2)は、富樫智「内蒙古阿拉善砂漠における住民参加型砂漠化防止の研究と実践」を
紀要論文として既に発表しており、その成果を更に発展させる活動を展開している。具
体的にはオニクという砂漠緑化作物の根に生育する植物を漢方薬原料として利用する
事業のビジネス化を中心とした実践的調査を推進している。このなかから「生きた活動
のための情報蓄積・生きた活動のための社会生態史学の研究・生きた活動の当事者によ
る研究とデータ蓄積を支援する」という目的が実現されつつある。ここから、次世代型
の「生きたデータベース」の構想のイメージが固まり始めた。

◆具体的な成果物

深尾葉子・安富歩編『黄土高原・緑を紡ぎだす人々—「緑聖」朱序弼をめぐる動きと
語り (東洋文化研究所叢刊 第24輯)』(風響社)、2010年。

大野のり子編『黄土地上来了日本人—中国山西省 三光政策村的記憶—』東洋学研究
情報センター叢刊13、2011年。

富樫智「内蒙古阿拉善砂漠における住民参加型砂漠化防止の研究と実践」東洋文化研
究所紀要、第159冊, pp. 239(122)-286(75)2011年。

◆全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品やイスラーム地域各地に残されたイスラーム時代の建築作品の調査研究を行って収集した画像資料と作品・建築に関する情報や既に蓄積された画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかに関し美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

◆今年度の進捗状況

英国・エジンバラの王立スコットランド博物館、オックスフォードのアシュモリアン美術館、兵庫県西宮市武庫川女子大学トルコ文化研究センターシルクロード建築文化展示室所蔵のペルシア・タイルの調査を行い、データを蓄積した。また、フスタート採取のイスラーム陶器片について、岡山県倉敷市大原美術館所蔵の作品を、イスラーム美術作品全般について岡山県岡山市立オリエント美術館の作品を調査した（いずれも次年度も継続）。

◆具体的な成果物

インド・イスラーム史跡写真については、センターのホームページで公開中 (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>)。イスラーム・タイルについては、蓄積データ数が少なく、美術館および美術財団所蔵品の画像については著作権の問題があるため、公開形態も含めて検討中である。武庫川女子大学所蔵ペルシア・タイルについては、「セラミック室」図録（2011年）を執筆し、情報を公開した。また、2011年10月に武庫川女子大学において当該大学の所蔵ペルシア・タイルについて、2012年1月に岡山市立オリエント美術館において当該美術館所蔵のイスラーム美術作品について申請者が関連発表を行った。

5. アジア・アフリカ学術基盤形成事業

1) アジア比較社会研究のフロンティア (3年計画の2年目)

(a) 共同研究

今年度のアジア比較社会共同研究会とアジア・バロメーター共同研究会は、それぞれ 12月16日と17日に1日かけて、台湾・中央研究院社会学研究所で実施された。

前者は、「アジア社会学の収斂と分散：理論的、実証的視点(Divergence and Convergence of Asian Sociologies: Theoretical and Empirical Perspectives)」と題され、各国のコーディネータークラスの研究者6名が報告を行い、台湾の歴代社会学会会長が集まったのラウンドテーブルも同時に開催された。

後者については、全体会合は「リスク、社会的信頼、そして社会的不平等：比較の視点(Risk, Social Trust, and Social Inequality: A Comparative View)」と題され、10名分の論文が発表されたが、韓国からの学生が急きょ入院することとなってしまう、最終的には9名の報告がなされた。テーマはリスク、家族、宗教性、ジェンダーの不平等、政治行動などさまざま、前者の6名の報告用資料と合わせて合計283ページのプロシーディングスが刊行されている。

前者では、来年度の日本社会学会での特別セッションにつながる問題提起がなされ、後者では、優秀論文が来年度のセミナー報告対象となることが決まった。発表された論文からは一部、東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センターのセンター叢刊の論文集に収録される予定である。

(b) セミナー

7月11日と12日の両日、アジア・バロメーターの2003-2008年統合データセットを用い、仮説構築からデータ分析にいたるまでの手続き・方法についてのレクチャー及び討論を行った。韓国、中国、台湾から推薦された若手研究者(韓国、中国(北京と上海)からはそれぞれ修士課程学生1名と博士課程学生1名ずつ、台湾は有職の若手研究者1名とポストドク1名、それに日本の修士課程学生1名と博士課程学生2名)を集め、アジア・バロメーターの意図するところとその歴史、データセットの概要、従来の研究蓄積とその特徴などについて説明した後、統合データセットを参加者に渡し、データ分析の初歩を教授した。また昨年の同時期に行われたセミナーへの参加者1名(台湾の有職の若手研究者1名)を招へいし、どのような点に注意しながら研究を進めたらよいのかについて講義してもらい、データベースを利用する際の留意点について討論を行った。同時に、昨年提出された論文の概要、及び今まで発表された論文の概要について説明し、どのような研究領域が新しいかについての情報提供を行った。

セミナー2日目は討論を通じてどのような仮説に、どのようなデータ(国や時期、質問など)によってタックルするかについて参加者同士で報告しあい、同年12月17日に台湾・中央研究院で予定されている報告会(アジア・バロメーター共同研究会)への準備をした。招

へい者1名については別予算から充当したが、本セミナーにかかわる旅費などは本事業費から充当した。

(c) 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

今年度は、以上の活動以外、台湾の中央研究院社会学研究所との合同ワークショップの実施（平成25年3月19日、20日）と、香港大学社会学系との合同ワークショップの実施（平成25年3月27日）という、研究者交流というには大掛かりな活動をした。

前者については、東京大学で広く大学院生からの応募を待ち、実際に応募してきた12名から、比較社会学的視点をもつすぐれた提案してきた6名を選抜し、台湾で実施された合同ワークショップで報告させた。東洋文化研究所の羽田正所長、大学院情報学環のJason Karlin准教授、それに園田茂人教授も参加し、それぞれの拠点機関の若手研究者が実施している社会学的研究の成果を披露しあった。

また、香港大学社会学系とは、”New Trends of Sociological Studies of Chinese Society”と題した合同ワークショップを実施した。これは、それぞれ本土を離れつつも、中国社会を対象にした社会学的研究をしている若手研究者を集め、香港と東京で、それぞれ研究していることの意味も含めて討論することを目的に実施された。

6. 研究成果の公開・発信事業

1) センターホームページの更新・運営

その時々イベントや成果について、昨年リニューアルされたセンターのホームページで紹介した (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp>)。

具体的には、「共同利用・共同研究拠点事業」、「機関推進プロジェクト」「研修事業」の項目については、最新情報を掲載するようにし、「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」と「アジア情報ゲートウェイ」はそれぞれリンクを張った先のホームページを更新させるとともに、センターのホームページにも、断片的に記事を載せるなどした。

2) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第26～27号を刊行し、全てのバックナンバーのPDFファイルをホームページ上 (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/newsletter.html>) で配布している。東洋学研究情報センター叢刊は第14輯『勃興する東アジアの中産階級 アジア比較社会研究のフロンティア I』を刊行し、関連機関への配布を行った。

3) アジア研究情報 Gateway

日本国内におけるアジア研究の動向として、若手アジア研究者の研究情報を2003年度からセンターホームページ上で紹介している。今年度は「関西中国書画コレクションの意義を考える-平成23年度 黒川古文化研究所の展覧を担当して」(執筆者:黒川古文化研究所 研究員・竹浪 遠)、「中国台頭時代の中国研究」(執筆者:九州大学大学院比較社会文化研究院・准教授・益尾知佐子) を掲載した。

7. 研修事業

1) 漢籍整理長期研修

平成23年度は6月13日～9月9日に実施し、11名が受講した。6月13日～17日の1週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の学生6名が受講した。

平成23年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月13日 (月)	9:30～ 17:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション 漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	講義	羽田 正 (東洋学研究情報センター長) 大木 康 (東洋文化研究所教授)	
6月14日 (火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井波 陵一 (京都大学教授)	
6月15日 (水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館准教授)	
6月16日 (木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館准教授)	
6月17日 (金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤本 幸夫 (麗澤大学教授)	
6月20日 ～9月2日		所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習		
9月5日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について (見学を含む)	講義	會谷 佳光 (東洋文庫図書部閲覧複写課長)	東洋文庫見 学を含む
9月6日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長澤 孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月7日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利 用と構築	講義	安岡 孝一 (京都大学准教授)	
9月8日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	安藤 清 (宮内庁書陵部)	
9月9日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習(3)	実習	高橋 智 (慶應義塾大学教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		羽田 正 (東洋学研究情報センター長)	

平成23年度漢籍整理長期研修研修員所属先一覧

1. 東京大学東洋文化研究所図書室
2. 琉球大学附属図書館
3. 人間文化研究機構 国文学研究資料館
4. 神戸大学附属図書館
5. 鶴見大学図書館
6. 早稲田大学図書館
7. 二松学舎大学附属図書館
8. 金沢大学附属図書館
9. 埼玉県立川越高等学校
10. 宮城県図書館
11. 名古屋大学附属図書館

8. その他

- 1) 平成24年1月27日(金)に一橋大学経済研究所会議室にて、全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナーの開催が開かれ、4センターの事業報告を行った。
- 2) 今年度からセンター機関推進プロジェクトの成果についてのヒアリングを行うようにし、その結果を翌年度(25年度)の予算編成の際に反映させることとした。